

ISO26000を参考ガイドラインとし、7つの取り組み分野に分け、中期的な取り組みを掲げております。
2015年度の実績は次の通りです。

A:達成 B:ほぼ達成 C:未達成

取り組み分野	関連ページ	重点項目	主なテーマ	2015年度以降の取り組み目標	2015年度の実績	自己評価
ガバナンス・コンプライアンス	P.14~16	コーポレート・ガバナンス	公正な企業活動の推進のために、取締役会・監査役会及び各種委員会での検討	・取締役会・監査役会の開催と、CSR推進委員会での活動計画の審議	・STA不適切会計処理において当社のガバナンスが適切に機能していなかったと判断	C
			評価範囲内対象会社について、財務報告に係る内部統制の有効性を評価	・財務統制委員会を中心とした活動実施【目標:開示すべき重要な不備件数 0件】	・開示すべき重要な不備があったと判断し内部統制報告書を提出	C
		コンプライアンス	住江織物グループ行動規範及び行動基準の浸透	住江織物グループコンプライアンスプログラムの確立 ・各階層別研修でのコンプライアンス研修 ・新入社員へのコンプライアンスガイダンス配布及び基礎知識講習 ・その他、イントラや集合形式での研修【計画比実施率:100%】	・各階層別研修、新入社員研修でのコンプライアンス研修実施【計画比実施率:100%】 但し、今後より実効性のある内容に見直す必要がある	B
			コンプライアンスに関するモニタリングの継続実施	・ローテーションによるコンプライアンス監査の実施【計画比実施率:100%】	・コンプライアンス監査の実施【計画比実施率:100%】 但し、海外子会社への監査を充実させる必要がある	B
事業慣行	P.37	公正な取引	契約状況の見える化・取引に関する法務教育及びモニタリングを実施	・下請法に関するイントラネットまたは集合形式での研修実施 ・内部監査実施【計画比実施率:100%】	・下請法に関する集合形式での研修実施 ・内部監査実施【計画比実施率:100%】	A
		グリーン調達	グリーン調達ガイドラインの推進	・サプライヤーへのガイドラインの配布と帳票の回収【目標:年1回】	・サプライヤーへのガイドラインの配布と帳票の回収を実施【目標:年1回⇒実績:年1回】	A
人権・採用・人事処遇・育成	P.23~28・P.35	多様性の尊重	多様性を尊重し、働きやすい職場づくりを実施	・子会社より障がい者雇用率達成に向けて、対策案を提出→期末の振り返り(株)スミノエ、ルノン、物流、住江テクノ、丹後、テクロス、尾張)	・住江織物(株)単体での障がい者雇用率は達成。 子会社での対策は未実施	C
			シニア社員への評価フィードバック時に上司面談を実施	・シニア社員への評価フィードバック時に上司面談を実施 ・CSRレポートでの活躍PR	・シニア社員への評価フィードバック時に上司面談を実施 ・CSRレポートでの活躍PR	A
		人材育成	自らの能力向上の支援としての集合教育の実施	・階層別・テーマ別研修の実施と内容の充実	階層別研修:内容の検討を例年通り実施 テーマ別研修:[財務三表の読み方]と「タイムマネジメント」の2テーマを選定し、実施	A
			グローバル人材の育成	・グローバル人材育成システムの基礎づくり	・新入社員及び希望者のTOEIC受験 ・語学研修(通学式レッスン、通信教育、赴任前語学研修)の実施 ・グローバル人材育成システムの基礎づくりは今後取り組む	B
			女性活躍	・女性活躍サポートフォーラムへの派遣 ・管理職対象、女性対象の女性活躍推進セミナー実施 ・両立支援マニュアル ・CSRレポートでの女性活躍PR ・各階層別研修での女性活躍PR	下記全て実施 ・女性活躍サポートフォーラムへの派遣 ・管理職対象、女性対象の女性活躍推進セミナー実施 ・両立支援マニュアル ・CSRレポートでの女性活躍PR ・各階層別研修での女性活躍PR	A
人材活性化	人材活性化への取り組み実施 ・入社1~5年目社員への「次世代育成面談」実施 ・ランチミーティング実施 ・「未来塾」の開催	人材活性化への取り組み実施 ・入社1~5年目社員への「次世代育成面談」実施 ・「未来塾」の開催	A			
安全・防災・健康	P.36	労働安全衛生	社員の安全を守るための活動計画を推進	・安全衛生委員会設置事業所での取り組みの共有 ・小規模事業所の安全衛生推進者・衛生推進者の設置 ・安全教育の定期実施【目標:休業件数での労災度数率1】	・安全衛生委員会設置事業所での取り組みの共有 ・小規模事業所の安全衛生推進者・衛生推進者の設置 ・安全教育の定期実施【目標:休業件数での労災度数率1⇒実績:1.32】	C
			防災訓練の実施	・防災訓練の実施【計画比実施率:100%】	・防災訓練の実施【計画比実施率:100%】	A

取り組み分野	関連ページ	重点項目	主なテーマ	2015年度以降の取り組み目標	2015年度の実績	自己評価
安全・防災・健康	P.36	労働安全衛生	社員の健康を保持するためのケアを実施	・4事業所でのハラスメント防止研修の実施 ・ハラスメント防止に向けた行動ルールの開示 ・健康相談室サービスの広報 ・ストレスチェックの実施	・ハラスメント防止研修の実施 ・相談しやすい体制づくりのためのハラスメント相談員の試験的設置 ・健康相談室サービスの広報 ・ストレスチェックの実施	A
			社員の健康を保持するためのケアを実施	・主な事業所については、タイムレコーダー導入済 ・労働時間を定期的にチェックし、長時間労働者への指導がされる仕組みづくり	・主要な事業所へのタイムレコーダー導入 ・労働時間の定期的なチェック、タイムレコーダーとの乖離の確認と指導 ・管理職対象労働法セミナーの実施 6拠点8回	A
			社員の健康を保持するためのケアを実施	・現状の業務システム全体像が把握できる資料の作成 ・集約した効率化案に対する対策の検討	・洗い出された非効率な事象の確認を継続実施	B
環境	P.39~44	事業活動における環境負荷の低減	地球温暖化防止	P.42に掲載		
リスクマネジメント	P.37~38	BCP	災害時の事業継続計画推進	・BCP行動計画の広報 ・本社事業所での安否確認訓練を実施し、改善点を把握	・本社事業所での安否確認を実施	B
			知的財産権	知的財産権への理解促進	・知的財産権に関する啓発活動の実施(社内イントラ・研修)【計画比実施率:100%】	・知的財産権に関する啓発活動の実施(社内イントラ・研修)【計画比実施率:100%】
		情報セキュリティ	情報セキュリティ教育の実施(情報端末セキュリティ、個人情報保護)	・情報セキュリティ教育実施 ・社有携帯所有者の誓約書提出 ・マイナンバー対応体制づくり、社員教育の実施	・情報セキュリティ教育の実施 ・社有携帯所有者の誓約書回収済 ・マイナンバーの対応体制整備済	A
			インサイダー取引防止啓発活動の実施	・インサイダーに関する啓発活動を引き続き実施	・STA会計処理問題について、役員・担当スタッフにインサイダー情報の取扱いについて注意喚起実施	A
			品質向上	品質向上の取り組み推進	・品質保証合同会議の定期開催(年4回)と、品質向上(不良率低減、品質損失金額低減活動)と化学物質規制に関する状況共有の取り組み継続実施	・品質保証合同会議の定期開催(年4回)と、品質向上(不良率低減、品質損失金額低減活動)と化学物質規制に関する状況共有の取り組み継続実施
顧客満足の向上	お客様対応と社内への展開	・お客様センターの問い合わせ内容のCSR委員会への報告	・お客様センターへの問い合わせ:2,115件 その内、商品・規格・価格・機能性に関する問い合わせは48%(1,019件)、ご指摘が6%(124件)	A		
消費者・社会貢献活動	P.45	外部コミュニケーション	ステークホルダーとのコミュニケーション促進(当社の強みのPR)	・決算短信4半期ごとに東証への適時開示及び自社HPに掲載を遅滞なく実施	・STAの会計処理問題に伴い、第127期ならびに第128期第1四半期の決算発表が遅れたが、問題の発端となった要因ならびにその(調査)状況について、適切なタイミングで開示	A
			外部コミュニケーション	・従来の外部コミュニケーションの実施 ・外部コミュニケーションに関する現状把握	①JAPANTECH2015、第80回東京インターナショナル・ギフト・ショー、第4回鉄道技術展等、展示会へ出展 ②機関投資家との面談は前期とほぼ同数となり、積極的に機関投資家とのコミュニケーションを図ることで、当社事業及び業績への理解を促進 ③ホームページでのIR情報の充実 法定開示資料に加え、中期3ヵ年経営計画やIRミーティングでの配布資料を掲載する等、積極的に情報開示を行ったが、STAの会計処理問題に伴い、決算発表資料の開示が遅れがあった ④CSRレポート特集記事にて、企業イメージを考えるととっかかりとして、社員が捉える住江織物らしさと、社会的役割を考えるセッションを実施	A
		社会貢献活動	地域への貢献環境関連の社会貢献活動実施	・住江グループとして実施する社会貢献の指針(分野、コンセプト)を作成し、委員会の承認を得る ・具体的な活動についての案を出し、委員会にてセレクト、または社員から募集	・地域への貢献、環境関連の活動については引き続き実施を行い、住江グループの社会貢献の指針(分野、コンセプト)について検討を開始	B